

病害虫発生予報

第4号(7月予報)

令和8年6月26日

岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	7月予報	
			発生時期	発生量
水稻	葉いもち	栽培地域全域	平年並	やや少
	紋枯病	栽培地域全域	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	栽培地域全域	平年並	平年並
	縞葉枯病	栽培地域全域	平年並	やや少
	セジロウンカ	栽培地域全域	平年並	平年並
	斑点米カメムシ類	栽培地域全域	平年並	やや多
かき	ハマキムシ類	栽培地域全域	やや早	多
なし	黒星病	栽培地域全域	—	やや少
	ナシヒメシンクイ	中濃地域	やや遅	少
もも	ナシヒメシンクイ	飛騨地域	平年並	平年並
果樹類	果樹カメムシ類	栽培地域全域	—	やや多
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	早	多
	チャノホソガ	岐阜・西濃地域	早	平年並
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	平年並	平年並
野菜一般	アザミウマ類	栽培地域全域	—	平年並

※発生時期の—は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）

<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

I 普通作物

1 水稻

葉いもち	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並（7月第4半旬頃）	やや少

- (1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少くなる要因を（-）で表記）
- ア 水稻の生育は、平年並（±）である。
 - イ 高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）によると、感染好適日が確認されている（+）
 - ウ 本田での調査では、初発を確認していない（-）。
 - エ 向こう1ヶ月（6/20～7/19）の気象予報によれば、気温はほぼ平年並（±）、降水量は並～多（±～+）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
- ア 補植用置苗はただちに除去し、早期発見、早期防除に努める。
 - イ 今後の高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）に注意する。
 - ウ いもち病に効果がある箱施薬剤または粒剤を使用していない場合は、本田での発生に注意し、防除に努める。

※ 病害虫図鑑「水稻 いもち病について」もあわせて参考にしてください。

紋枯病	対象地域	発生時期 <初発生>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第2～第3半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 水稻の生育は、平年並(±)である。
- イ 前年の発生面積は、岐阜・西濃地域で多く(+)、中濃地域、東濃地域、飛騨地域で少なかった(-)。
- ウ 向こう1ヶ月(6/20～7/19)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は平年並～多(±～+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 上位葉進展阻止を目標に、幼穂形成期を中心に防除する。
- ※ 病害虫図鑑「水稻 紋枯病について」もあわせて参考にしてください。

ヒメトビウンカ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第1半旬頃)	平年並

縞葉枯病	対象地域	発生時期<最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第4半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯によるヒメトビウンカの誘殺数は、少ない(-)。
- イ 本田におけるヒメトビウンカの発生は、岐阜・西濃地域で少なく(-)、中濃地域は平年並であった(±)。
- ウ 前年のヒメトビウンカの縞葉枯ウイルス保毒虫率は、岐阜・西濃地域で少なく(-)、中濃地域では平年並であった(±)。
- エ 縞葉枯病抵抗性のハツシモ岐阜SLへ切替えが行われた(-)。
- オ 向こう1ヶ月(6/20～7/19)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は平年並～多(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 感受性品種について、箱施薬を行わなかった場合は、第2世代幼虫の防除を実施する。
- ※ 病害虫図鑑「水稻 ヒメトビウンカと縞葉枯病について」もあわせて参考にしてください。

セジロウンカ	対象地域	発生時期<幼虫発生最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第4半旬頃)	平年並

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、認められていない(-)。
- イ ほ場での発生は、岐阜・西濃地域、飛騨地域ともに平年並で(±)、中濃地域、東濃地域ともにやや少なかった(-)。
- ウ 向こう1ヶ月(6/20～7/19)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 海外飛来性害虫のため、今後の発生予察情報に注意する。
- ※ 病害虫図鑑「水稻 セジロウンカ・トビイロウンカについて」もあわせて参考にしてください。

斑点米カメムシ類	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (7月第6半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯によるカスミカメムシ類の誘殺数は、アカスジカスミカメは岐阜・西濃地域で多く(+)、中濃地域は平年並(±)で、その他の地域は少なかった(-)。アカヒゲホソミドリカスミカメは中濃地域、東濃地域で多く(+)、その他の地域で少なかった(-)。
- イ 向こう1ヶ月(6/20～7/19)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は平年並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂10日前までに畦畔の雑草地等における除草を徹底し、特にイネ科雑草は出穂させないように管理する。
- イ 散布剤による防除は、穂揃期およびその7～10日後の2回を基本とするが、カスミカメムシ類が優占する地域では出穂期～穂揃期に実施する。
- ウ 粒剤による防除では出穂期の7～10日後を基本とする。
※病害虫図鑑「水稻 斑点米カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

II 果樹等作物

1 かき

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早(6月第6半旬頃)	多

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺最盛期は、認められていない(－)。
- イ フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキ第1世代成虫の誘殺数は岐阜・西濃地域で多く(+)、チャハマキ第1世代成虫の誘殺数は、中濃地域で多かった(+)。
- ウ 予察灯によるチャノコカクモンハマキ第1世代成虫の誘殺数は岐阜・西濃地域、中濃地域とも多かった(+)。
- エ 向こう1ヶ月(6/20～7/19)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は平年並～多(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫発生初期に防除を実施する。
※病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

黒星病	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 発病果は、岐阜・西濃地域で認められていない(－)。
- イ 発病葉率は、低い(－)。
- ウ 向こう1ヶ月(6/20～7/19)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は平年並～多(±～+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 発病部位は、伝染源となるため早めに切り取り処分する。
※病害虫図鑑「なし 黒星病について」もあわせて参考にしてください。

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	中濃地域	やや遅(7月第1半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数は、少ない(－)。
- イ 向こう1ヶ月(6/19～7/20)の気象予報によれば、気温は平年並(±)、降水量は平年並～多(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫発生初期に防除を実施する。
※病害虫図鑑「なし ナシヒメシンクイについて」もあわせて参考にしてください。

3 もも

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	飛騨地域	平年並（7月第3半旬頃）	平年並

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップによる誘殺数は、少ない（－）。また、りんごのフェロモントラップによる誘殺数は多い（＋）。

イ 芯折れ被害は、調査ほ場で認められていない（－）。

ウ 向こう1ヶ月（6/19～7/20）の気象予報によれば、気温は平年並（±）、降水量は平年並～多（±～－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 交信攪乱剤が設置されていないほ場では、発生に注意する。

4 果樹類

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや多

(1) 予報の根拠

ア 予察灯による成虫誘殺数は、岐阜・西濃地域、飛騨地域でやや少なく（－）、中濃地域で少なく（－）、東濃地域で平年並であった（±）。

イ フェロモントラップによる誘殺数は、岐阜・西濃地域、東濃地域で多かった（＋）。中濃地域では、やや少なく（－）、飛騨地域で少なかった（－）。

ウ 向こう1ヶ月（6/20～7/19）の気象予報によれば、気温は平年並で（±）、降水量は平年並～多（±～－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 気温、湿度が高く風の弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。

※病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

5 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第2世代幼虫発生最盛期>	発生量
	岐阜・西濃地域	早（7月第1半旬頃）	多

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺最盛期は早かった（＋）。

イ 予察灯による誘殺数は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに多かった（＋）。

ウ フェロモントラップによる誘殺数は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキともに多かった（＋）。

エ 巻葉被害は、平年並であった（±）。

オ 向こう1ヶ月（6/20～7/19）の気象予報によれば、気温は平年並で（±）、降水量は平年並～多い（±～－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫が葉をつづりあわせると、薬液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施する。

※ 病害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

チャノホソガ	対象地域	発生時期<第2世代成虫発生最盛期>	発生量
	岐阜・西濃地域	早（7月第2半旬頃）	平年並

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数は、平年並であった（±）。

イ 第2世代幼虫による巻葉は、少なかった（－）。

ウ 向こう1ヶ月（6/20～7/19）の気象予報によれば、気温は平年並で（±）、降水量は平年並～多（±～－）と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発生最盛期が開葉期と重なると被害が大きくなるので注意する。

※ 病害虫図鑑「茶 チャノホソガについて」もあわせて参考にしてください。

Ⅲ 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生時期<発生最盛期>	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	平年並（7月第4半旬頃）	平年並

- (1) 予報の根拠
 ア 発病果の初発生は、東濃地域でやや早く（+）、中濃地域、飛騨地域では認められていない（-）。
 イ 発病株は、東濃地域で多い（+）。
 ウ 向こう1ヶ月（6/20～7/19）の気象予報によれば、気温は平年並（±）、降水量は平年並～多（±～+）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
 ア 薬剤耐性がつきやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
 ※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

アザミウマ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

- (1) 予報の根拠
 ア ナスほ場での発生量は、岐阜・西濃地域、中濃地域で少なく（-）、東濃地域が多かった（+）。
 イ トマト、ホウレンソウでの被害は、認められていない（-）。
 ウ 向こう1ヶ月（6/20～7/19）の気象予報によれば、気温は平年並（±）、降水量は平年並～多（±～-）と予想される。
- (2) 防除上注意すべき事項
 ア 発生初期の防除に重点をおく。
 イ 施設栽培では残渣処理(蒸し込み)を徹底して、他品目への分散を防止する。
 ウ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。
 ※ 病害虫図鑑「キュウリ ミナミキイロアザミウマについて」もあわせて参考にしてください。

[参考資料1]

【各地域の病害虫発生調査結果および今後の予測】

※岐阜・西濃地域

作物名	病害虫名	6月発生量	7月発生予測	
			発生量	時期
水稻	葉いもち	少	やや少	並
	紋枯病	—	多	並
	ヒメトビウンカ	少	少	並
	縞葉枯病	—	少	—
	セジロウンカ	並	並	並
	斑点米カメムシ類	並	やや多	並
かき	ハマキムシ類	多	多	やや早
なし	黒星病	少	やや少	—
果樹類	果樹カメムシ類	やや多	多	—
茶	ハマキムシ類	多	多	早
	チャノホソガ	並	並	早
野菜一般	アザミウマ類	少	やや少	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●水稻

・葉いもち

本病が感染すると、おおよそ5～10日後に病斑がみられます。今後の高精度発生予察速報（BLASTAMによるいもち病情報）に注意し、防除の参考としてください。いもち病に効果がある箱施薬剤または粒剤を使用していない場合は、ほ場での発生に注意し、防除に努めてください。

- ・紋枯病
岐阜・西濃地域で発生面積は年々増加しています。前年度に多発したほ場では、初発生を確認したら薬剤防除を実施してください。

- ・斑点米カメムシ類
本虫は、畦畔イネ科雑草で増殖します。水稻の出穂直前および出穂後の畦畔の除草は、本虫を水田内に追い込む恐れがあるため出穂10日前までに実施してください。防除は出穂～穂揃期とおよびその7～10日後の2回実施してください。イネカメムシは、出穂前から飛来し、開花期以降に集中して加害するため、防除時期が早く、散布剤では出穂期前後、粒剤では出穂期の5～10日前に防除してください。

●かき

- ・果樹カメムシ類
岐阜市に設置したチャバネアオカメムシのフェロモントラップ（以下PT）への4月第1半旬から6月第4半旬までの誘殺数は338頭（平年167.8頭）と多く推移しています（図1）。果樹カメムシ類は、風が弱く、夜温及び湿度の高い薄暮時（日没後1時間位）に活動が活発となります。今後の気象情報には十分注意し、園内の見回りを強化するとともに、飛来が認められたら防除を実施してください。

- ・ハマキムシ類
岐阜市に設置したチャノコカクモンハマキのPTへの6月第1半旬から第4半旬までの誘殺数は、121頭（平年23.9頭）と多く推移しています。発蛾最盛期は認められていませんが、防除適期は発蛾最盛期から10日後が目安です。今後の情報に注意するとともに、ほ場での被害が認められたら防除を実施してください。

●茶

- ・ハマキムシ類
池田町に設置したチャノコカクモンハマキのPTへの5月第6半旬から6月第4半旬までの誘殺数は、931頭（平年381.8頭）と多く推移しています（図2）。また、同地点に設置したチャハマキのPTへの5月第3半旬から6月第4半旬までの誘殺数は、480頭（平年115.9頭）と多く推移しており、発蛾最盛期は6月第3半旬に認められました。調査ほ場ではハマキムシ類による巻葉被害も確認されています。防除適期は、発蛾最盛期から10日後が目安です。

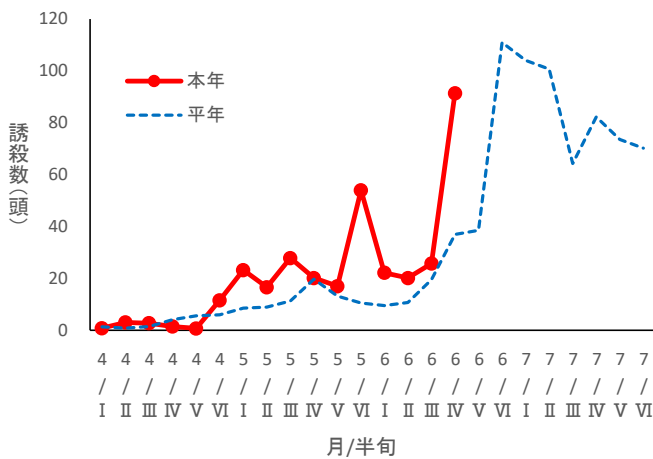


図1 PT*によるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (岐阜市則松)

* : フェロモントラップ

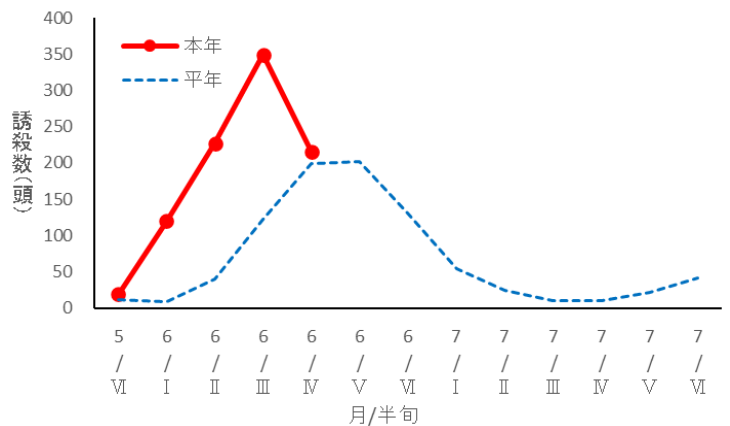


図2 PT*によるチャノコカクモンハマキ誘殺数の推移 (池田町)

※中濃地域

作物名	病害虫名	6月発生量	7月発生予測	
			発生量	時期
水稲	葉いもち	少	やや少	並
	紋枯病	—	やや少	並
	ヒメトビウンカ	やや少	並	並
	縞葉枯病	—	並	—
	セジロウンカ	少	やや少	並
	斑点米カメムシ類	並	並	並
かき	ハマキムシ類	多	多	やや早
なし	黒星病	少	やや少	—
	ナシヒメシクイ	少	少	やや遅
果樹共通	果樹カメムシ類	少	やや少	—
夏秋トマト	灰色かび病	少	並	—
野菜一般	アザミウマ類	少	やや少	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●水稲

・斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類は、出穂と同時に水田に侵入し、開花～糊熟期にかけて水稲を加害します。なお、イネカメムシおよびクモヘリカメムシは登熟初期から加害し著しい不稔被害を発生させるため、防除時期に注意が必要です。

イネカメムシにおいては、防除時期が早く、散布剤では出穂期前後、粒剤では出穂期の5～10日前が防除適期となります。イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類に対する散布剤による防除は、穂揃期およびその7～10日後の2回実施してください。

●かき

・ハマキムシ類

チャハマキのフェロモントラップへの、6月第1から第4半旬累計誘殺数は12頭（平成30頭）と多く認められています。ふ化幼虫が葉などをつづると、薬液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施してください。

●果樹共通

・果樹カメムシ類

発生には地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

●夏秋トマト

・灰色かび病

20℃前後の気温と高湿度が続くと発病が多くなります。夏秋雨よけ栽培では、梅雨期頃より発生がみられるため、発生初期の防除を徹底してください。なお、薬剤防除にあたっては、耐性菌の発現を避けるため、系統の異なる薬剤でのローテーション防除を実施してください。

※東濃地域

作物名	病害虫名	6月発生量	7月発生予測	
			発生量	時期
水稻	葉いもち	少	やや少	並
	紋枯病	—	やや少	並
	セジロウンカ	少	やや少	並
	斑点米カメムシ類	並	並	並
果樹共通	果樹カメムシ類	並	やや多	—
夏秋トマト	灰色かび病	並	やや多	—
野菜一般	アザミウマ類	並	並	—

●水稻

・斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類は、出穂と同時に水田に侵入し、開花～糊熟期にかけて水稻を加害します。なお、イネカメムシおよびクモヘリカメムシは登熟初期から加害し著しい不稔被害を発生させるため、防除時期に注意が必要です。

イネカメムシにおいては、防除時期が早く、散布剤では出穂期前後、粒剤では出穂期の5～10日前が防除適期となります。イネカメムシ以外の斑点米カメムシ類に対する散布剤による防除は、穂揃期およびその7～10日後の2回実施してください。

●果樹共通

・果樹カメムシ類

発生には地域差や園地差があるため、園内をよく観察し、飛来を確認したら防除を実施してください。園への飛来は夜温が25℃前後と高く、高湿度、風の弱い日に多くなる傾向があるため、天候に注意してください。

●夏秋トマト

・灰色かび病

20℃前後の気温と高湿度が続くと発病が多くなります。夏秋雨よけ栽培では、梅雨期頃より発生がみられるため、発生初期の防除を徹底してください。なお、薬剤防除にあたっては、耐性菌の発現を避けるため、系統の異なる薬剤でのローテーション防除を実施してください。

※飛驒地域

作物名	病害虫名	6月発生量	7月発生予測	
			発生量	時期
水稻	葉いもち	並	並	並
	紋枯病	—	やや少	並
	セジロウンカ	—	並	並
	斑点米カメムシ類	—	並	並
もも	ナシヒメシンクイ	少	並	並
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	並	—
夏秋トマト	灰色かび病	並	並	やや早
野菜一般	アザミウマ類	少	少	—

※圃場での見取り、予察灯、フェロモントラップ等により調査

●水稻

・葉いもち

一部地域で既に初発が認められており、今後の発生に注意が必要です。日当たりの悪い山際や、窒素過多で葉色が濃く推移しているほ場では、葉いもちの発生が多くなり、その後の穂いもち発生に繋がります。今後の情報（BLASTAMによるいもち病情報等）に注意し、適期防除を実施してください。

・斑点米カメムシ

水稻の出穂と同時に水田への侵入が予想されます。畦畔などのイネ科雑草が増殖場所となるため、出穂の2週間前までに地域一斉に草刈りを実施してください。薬剤防除は、1回

目を出穂7日後頃、2回目を1回目散布の7～10日後に行う2回防除が効果的です。

●果樹全般

・カメムシ類

チャバネアオカメムシの予察灯（高山市国府町）への誘殺数は、5月第2半旬から6月第3半旬累計で25頭（平年33.0頭）とやや少ないですが（図3）、今後、気温の上昇とともに断続的な園への飛来が予想されます。特に風が弱く、温湿度が高い薄暮時（日没1時間位）に活動が活発となるため、園内をよく観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。

●夏秋トマト

・灰色カビ病

本病は20℃前後で多湿条件が続くと発病しやすくなります。咲き終わった花卉や葉先枯れを早急に除去するとともに、排水対策や換気、葉かき等でハウス内の風通しを良くし、多湿とならないよう注意してください。薬剤防除にあたっては、発生初期の防除を徹底し、耐性菌の発現を避けるため、系統の異なる薬剤でのローテーション防除を実施してください。

●野菜一般

・アザミウマ類

一部地域でトマトの白ぶくれ果やハウレンソウの新葉萎縮の発生が認められています。花粉を餌とし、花が咲く雑草に多く寄生しているため、草刈り後等は、ハウス内への飛び込みに注意しましょう。防除の際は、アザミウマ類の種類によって薬剤効果が異なるため、発生している種類を確認し、防除を実施してください。

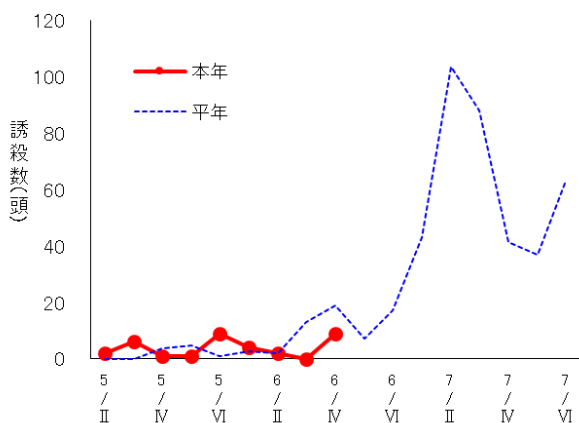


図3 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数の推移
（高山市国府町）

[参考資料2]

《用語の基準と使用法》

- | | | |
|---|-----|----------------------------|
| 1 | 半旬 | 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。 |
| 2 | 時期 | 平年並 平年値を中心として前後2日以内。 |
| | | やや早い 平年値より3～5日早い。 |
| | | やや遅い 平年値より3～5日遅い。 |
| | | 早い 平年値より6日以上早い。 |
| | | 遅い 平年値より6日以上遅い。 |
| 3 | 発生量 | 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。 |
| | | やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。 |
| | | やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。 |
| | | 多い 平年値より、その値が41%以上多い。 |
| | | 少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。 |
| 4 | 平年値 | 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。 |

[参考資料3]

【東海地方1か月気象予報】（抜粋）－名古屋地方気象台 令和8年6月18日発表－
《予想される向こう1カ月の天候（6月20日から7月19日）》

- ・ 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 平均気温は、ほぼ平年並みの見込みで低40%、並30%、高30%の確率です。降水量は、平年並みか多40%の確率です。日照時間は、ほぼ平年並みの見込みで少40%、並30%、多30%の確率です。

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

6月～8月は、令和8年度農薬危害防止運動の実施期間です。農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及するとともに、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を徹底し、農薬による事故等を未然に防止しましょう。